



第70期 ZAOH LETTER

2025.4.1 ▶ 2026.3.31

環境を美しく健やかに
私たちは環境美化創造企業です



蔵王産業株式会社

証券コード: 9986



新商品が貢献して増収増益に。
全社一丸となってさらに飛躍し、
1桁上の業績を目指します。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の第70期(2025年4月1日～2026年3月31日)における事業の概況をご報告させていただきます。

代表取締役社長 沓澤 孝則

私たち蔵王産業は、
クリーンな労働環境や生活環境づくりに積極的に取り組み、
高品質な環境クリーニング機器を提案、提供する企業です。

当期2026年3月期の業績について 解説をお願いします。

2026年3月期における当社の業績につきまして
は、新商品が大きく寄与して業績が大幅に改善し、
売上高8,757百万円、営業利益1,016百万円、経常
利益1,042百万円、当期純利益718百万円と、増収
増益を達成しました。

当期における日本経済は、堅調なインバウンド需
要や所得環境等の改善により景気回復傾向が見ら
れるものの、物価上昇による個人消費マインドへの
影響等により先行き不透明な状況が続いております。
このような中、当社は価格競争力のある新商品
の積極的な投入、各種展示会への出展のほか、引き
続き代理店販売の拡充等に努めました。法人向け
(業務用)におきましては、2年前に投入した新商品
が業績に貢献し、中でも新発想の振動型コンパクト
スクラバー「スクラブメイトB5」とマルチ型床洗浄
機「マルチウォッシュプロLi」を軸に全国規模でセ

ミナーを開催し、展示会に積極的に出展したことで
売上が好調でした。また、ロボットクリーナーの拡
販が勢いづき、販売台数が一気に増えました。強アル
カリイオン電解水生成機「ZKプレミアム」は底堅
い需要が続きました。一方、コンシューマー向けに
おきましては、高圧洗浄機「ヴィットリオ」の販売が
伸びたものの、かつて売上が突出していた家庭用リ
ンサーの下げ幅が大きく、全体としては厳しい結果
となりました。このほかアフターサービスの取り組
みにつきましては、物流センターにおいて相当数
の商品在庫のもつことで、修理期間も短く、ユー
ザー様にきめ細かいサービスを提供できており
ます。

前期実績との比較では、売上面は商品の仕入先を
中国メーカーに置き換えたことで価格競争力が格
段に向上し、かつ実演展示を担当する営業スタッフ
が新商品の性能に自信を持てたことが大きく、営業
力が高まって売上の増加につながりました。利益面
においては価格改定が寄与しました。

● 売上高

8,757 百万円

前期比

3.6%増



● 経常利益

1,042 百万円

前期比

12.2%増



● 自己資本比率

85.9%

前期比

1.4ポイント減



● 1株当たり純資産

2,407.74 円

前期比

37.88円増



● 配当金

105 円

前期比

5円増



● 配当性向

79.4%

前期比

8.7ポイント減



第70期は第68期から始めた3年間にわたるロードマップの仕上げの年と位置づけ、多くの実りを収穫する意気込みで臨みました。しかしながら第69期上期の業績の落ち込みが大きく、当初の計画を下回る経営成績となりました。第71期以降は営業スタッフのスキルの底上げを図り、改めて100年、200年と続く企業を目指してチャレンジを続けてまいります。

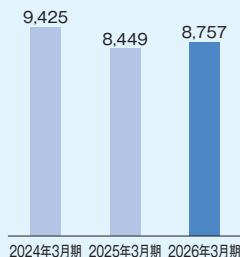
事業成長のための重要テーマの進捗状況はいかがですか。

当社は事業成長と収益性向上のため、4つの重要テーマに取り組んでおります。当期は当社の生命線でもある「新商品開発の推進」では8機種を投入し、いずれも高い評価を得ています。来期以降もユーザーニーズに応える商品開発に努めます。「新規仕入先の開拓」では、2023年度から仕入先を欧州メーカーから中国メーカーへ置き換えを進めてま

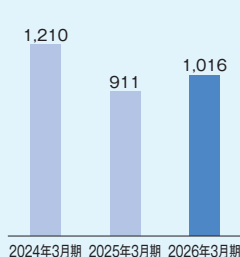
いりましたが、それがほぼ完了いたしました。米中対立や日中摩擦などが長期化していますが、1年を通して商品が安定供給され、当社からの改善要求にも速やかに対応がなされています。ただ仕入先を特定メーカーに限定することはリスクが伴うことから、数年かけて新たな仕入先を開拓いたします。コンシューマー向け商品の売上に直結する「ブランド力の向上」では、引き続き量販店やホームセンターでの高圧洗浄機「ヴィットリオ」の展示ブース拡大に取り組みました。機能は競合商品と同レベルで、価格はリーズナブルであることから、徐々にブランド力を構築できるものと考えております。「人的資本への積極的投資」では、当社専用の人工知能(AI)を現在開発中です。これまではユーザー様を訪問する前に条件の似た事例や業種特有のお困り事、新商品の提案方法などを、経験豊富なベテランスタッフに学んでいました。しかし営業所によっては徹底できていないところもありました。今後はAIを活用して商品情報のストックや経験が浅いスタッフの提案スキルの向上、社員教育のスピード

● 財務ハイライト (単位:百万円)

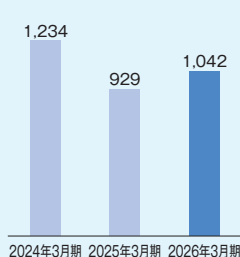
● 売上高



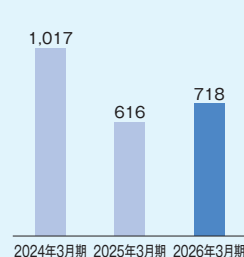
● 営業利益



● 経常利益



● 当期純利益



アップを図るとともに、商品の問い合わせへの自動対応を担わせたいと考えています。

ROE改善に向けた取り組み 方針をお聞かせください。

当社は資本コストや株価を意識した経営につきまして「ROE(自己資本利益率)10%以上」「PBR(株価純資産倍率)1倍以上」の達成を中長期的な目標としていますが、当期は未達でした。当面は事業改善による純利益の増加に全力を注いでまいります。法人向け商品は、当期の営業部の売上・利益ともに過去最高でした。この勢いを加速して競合先に対する優位性を築いてまいります。コンシューマー向け商品は高圧洗浄機の売上の引き上げが必須課題です。当期は量販店向けが大幅に伸びましたが、競合他社の市場シェアもあるため、まだまだ成長余地があります。引き続き量販店等の売り場面積の拡大、展示ブースでの実演等により認知度を高め、ネット検索の上位獲得を目指してまいります。

ロボットクリーナーの販売状況は いかがですか。

当社では2023年10月からロボットクリーナーの取り扱いを開始し、当期は前期に比べて約8倍と大幅に販売台数を増やすことができました。この事業に関しては市場をつくることを優先して、営業スタッフに対して自分が担当するユーザー様に積極的に紹介するように促したところ引き合いが急増

しました。また納入先は病院、ショッピングモール、工場、ホテルなどさまざまです。当社商品は価格が比較的高めですが、清掃性能は他社製より優位性があり、清掃速度が速いこと、とりわけ障害物等を避けられるマッピング機能がユーザー様に高く評価されて売上につながっています。

ロボットクリーナーは地方に人気があります。背景としては人手不足が深刻で、清掃スタッフが集まりにくくなっていることがあります。「日常清掃は高い採用費や人件費を払うより、ロボットクリーナーに清掃を任せて省力化したい」と考えるユーザー様が確実に増えてきています。販売台数が伸びてきたことを受けて、2025年7月からは東日本と西日本に責任者を1名ずつ置き、各地で実演会を積極的に開催させています。来期以降は先行してロボットクリーナー分野に進出した他社商品の買い替え需要が徐々に出てくると思われます。当社商品のメリットをしっかりとアピールし、シェアを確実に取りにいきたいと考えています。

第71期の事業環境について どのような見通しをお持ちですか。

第71期につきましては現時点で増収増益を見込んでいますが、当社は商品を海外から輸入していることから事業環境はかなり厳しくなると予想しています。それには為替レートの問題も当然ありますし、さらには中東情勢の緊張による原油供給リスクと円安の影響で、石油製品価格が上昇しております。このため当社の事業計画がそのまま進められるのか、懸念があります。しかし国内における清掃機器

の需要は法人向け・コンシューマー向けともに堅調であり、安定成長するものと考えております。計画した数字にできるだけ近づけるよう、全力で取り組んでまいります。

配当方針についてどのようにお考えですか。

当社は2026年4月に創立70周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様、ユーザー様、お取引様をはじめ、長年にわたる多くの方々の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。また当期はおかげさまで業績回復を果たすことができました。つきましては株主の皆様への感謝の意を表するため、当期の期末配当について1株当たり5円の記念配当を実施することといたしました。この結果、2026年3月期の1株当たりの配当金は、普通配当50円と合わせて1株当たり55円（普通配当50円、記念配当5円）となります。

なお当社は長期的に株式を保有していただくため、当社の事業展開や財務状況のほか、会計基準の変更等特殊要因による業績変動等を総合的に勘案し、70周年まで1株当たり100円の安定的な配当を行うこととしておりましたが、引き続き当方針を75周年まで継続的に取り行う予定です。



株主の皆様へメッセージをお願いします。

当期は2期連続の減収減益から、増収増益に転じました。来期はスタッフ全体のスキルアップを図り、4つの重要テーマに沿った営業活動を展開し、1桁上の売上と利益に持っていけるよう全社一丸で取り組んでまいります。また、新たに海外の日本企業ならびに現地企業向けに強アルカリイオン電解水生成機「ZKプレミアム」のテスト販売にトライいたします。現時点では競合商品が海外にないことから、多くのユーザー様を獲得できるものと期待しております。

株主の皆様におかれましては、これからも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

清掃機器部門

売上高

1,779 百万円

主要
商品動力清掃機、真空掃除機、
カーペット清掃機、泥層・
氷層除去機

当期は、搭乗式大型清掃機の販売が堅調に推移したこと等から、増収となりました。

●吸塵清掃ロボット
「R3-Vac」

両脇にカメラとセンサーを取り付けているため、従来の清掃ロボットではなしえなかった壁際ぎりぎりまできれいにすることができます。

また、集塵方法にも工夫を凝らしており、シリンダーブラシとマイクロファイバーブラシの2種類をツインで取付け、掻き上げるようにしながらゴミを集めることができ、最高の清掃を実現します。

●バッテリー駆動式 動力清掃機
「シルバー400-3」

カーペット、Pタイル、木床、石床など、あらゆる床で優れた清掃効果を実現。

限られた時間や人員で運用しなければならない現場においても、より短時間で高い清掃品質を確保し、作業負荷の軽減と業務効率化に貢献しています。



洗浄機器部門

売上高

3,839 百万円

主要
商品自動床洗浄機、カーペット
洗浄機、カーペット濯ぎ洗
い機、高圧洗浄機、スチー
ム洗浄機、振動式洗浄機

当期は、コンシューマー向け家庭用リンサーの販売が減少したこと等から、減収となりました。

●次世代振動型コンパクトスクラバー
「スクラブメイトB5」

カウンターローテーションテクノロジーはまるで手作業のような精密さで、隅々まで汚れを取り除くことを可能にします。また、商品の上部を傾けることが可能な構造から、テーブルの下など床洗浄や、デルタ型ヘッドの採用で、従来の床洗浄機では、手の届かなかった場所もスムーズに洗浄することもでき、好評を得ています。

●軽量小型 自動床洗浄機
「スクラブメイトF15Li」

コードレスで入り組んだ狭い通路や隙間も自在に洗浄作業が可能。同時にECOモードを搭載し、長時間稼働を実現しているため、日常清掃の作業負担を大きく減らし、様々な現場で好評を得ています。



その他部門

売上高

3,138 百万円

主要
商品

強アルカリイオン電解水生成機、部品及びメンテナンスサービス、清掃・洗浄機用消耗品及びアクセサリ、水質浄化剤、一般家電製品、その他

●強アルカリイオン電解水生成機
「ZKプレミアム」

通常のアルカリ濃度のpH12.5に対しpH13.1の濃縮イオン電解水を生成することが可能となりました。

濃度の違いは洗浄力となって表れ、ノンケミカルの洗浄へ欠かせない商品の一つとなっています。

●コードレスプールの清掃ロボット
「SUBLUE BN Pro」

独自のAIにより、プール内を隅々まで最適なルートで清掃します。

7種類のセンサーを搭載し、障害物・水位・壁面を高精度に検知。

世界初のマッピング機能を実現した、次世代型プール清掃ロボットです。



① 流動資産

前事業年度末に比べて1.0%増加し、10,836百万円となりました。これは主として受取手形が370百万円、売掛金が136百万円減少したものの、電子記録債権が427百万円、現金及び預金が125百万円、商品が48百万円増加したこと等によるものであります。

② 固定資産

前事業年度末に比べて9.2%増加し、4,398百万円となりました。これは主として投資有価証券が387百万円増加したこと等によるものであります。

③ 流動負債

前事業年度末に比べて28.4%増加し、1,081百万円となりました。これは主として流動負債その他が118百万円、未払金が61百万円、未払法人税等が52百万円増加したこと等によるものであります。

④ 固定負債

前事業年度末に比べて2.0%増加し、1,059百万円となりました。

⑤ 純資産合計

前事業年度末に比べて1.7%増加し、13,093百万円となりました。この結果自己資本比率は85.9%となりました。

CHECK!

2026年3月期決算の詳細は
当社HP《IR情報》に掲載しています。
<https://www.zaohnet.co.jp/ir/>

● 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第70期 (2026年3月31日現在)	第69期 (2025年3月31日現在)
(資産の部)		
① 流動資産	10,836	10,731
現金及び預金	2,189	2,064
受取手形	193	564
電子記録債権	531	103
売掛金	1,485	1,622
有価証券	4,694	4,697
商品	1,689	1,640
前払費用	20	17
デリバティブ債権	5	—
その他	18	23
貸倒引当金	△0	△0
② 固定資産	4,398	4,026
有形固定資産	3,433	3,467
建物	1,164	1,210
構築物	43	48
機械装置	50	13
車輛運搬具	45	43
工具器具備品	9	16
土地	2,109	2,109
建設仮勘定	9	26
無形固定資産	99	128
ソフトウェア	88	119
電話加入権	9	9
投資その他の資産	865	429
投資有価証券	465	78
出資金	23	23
繰延税金資産	300	278
その他	39	37
貸倒引当金	△1	△1
資産合計	15,234	14,757
(負債の部)		
③ 流動負債	1,081	842
買掛金	149	170
契約負債	1	28
リース債務	12	10
未払金	187	125
未払費用	162	144
未払法人税等	229	177
賞与引当金	152	122
商品保証引当金	24	15
その他	135	16
④ 固定負債	1,059	1,038
退職給付引当金	591	574
再評価に係る繰延税金負債	177	177
その他	259	253
負債合計	2,140	1,881
(純資産の部)		
株主資本	12,741	12,553
資本金	2,077	2,077
資本剰余金	2,416	2,411
利益剰余金	9,700	9,525
自己株式	△1,453	△1,460
評価・換算差額等	352	323
その他有価証券評価差額金	22	—
繰延ヘッジ損益	3	△3
土地再評価差額金	326	326
⑤ 純資産合計	13,093	12,876
負債・純資産合計	15,234	14,757

● 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第70期 (2025年4月1日～ 2026年3月31日)	第69期 (2024年4月1日～ 2025年3月31日)
売上高	8,757	8,449 ⑥
売上原価	4,589	4,561
売上総利益	4,167	3,888
販売費及び一般管理費	3,150	2,976
営業利益	1,016	911
営業外収益	40	40
営業外費用	14	23
経常利益	1,042	929
税引前当期純利益	1,042	929
法人税、住民税及び事業税	359	312
法人税等調整額	△35	0
当期純利益	718	616

● キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第70期 (2025年4月1日～ 2026年3月31日)	第69期 (2024年4月1日～ 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,127	513 ⑦
投資活動によるキャッシュ・フロー	△449	52 ⑧
財務活動によるキャッシュ・フロー	△554	△550 ⑨
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△2
現金及び現金同等物の増減額	122	12
現金及び現金同等物の期首残高	6,761	6,748
現金及び現金同等物の期末残高	6,884	6,761

⑥ 売上高

コンシューマー向け家庭用リンサーの販売が減少しましたが、搭乗式大型清掃機等の販売が堅調に推移したこと等から、前期比3.6%の増収となりました。

⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,127百万円（前期比613百万円増加）となりました。収入の主な要因は、税引前当期純利益が1,042百万円、その他流動負債の増加額が238百万円、支出の主な要因は、法人税等の支払額が323百万円あったこと等によるものであります。

⑧ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、449百万円（前期比52百万円の収入）となりました。

⑨ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、554百万円（前期比3百万円増加）となりました。支出の主な要因は、配当金の支払額が542百万円あったこと等によるものであります。

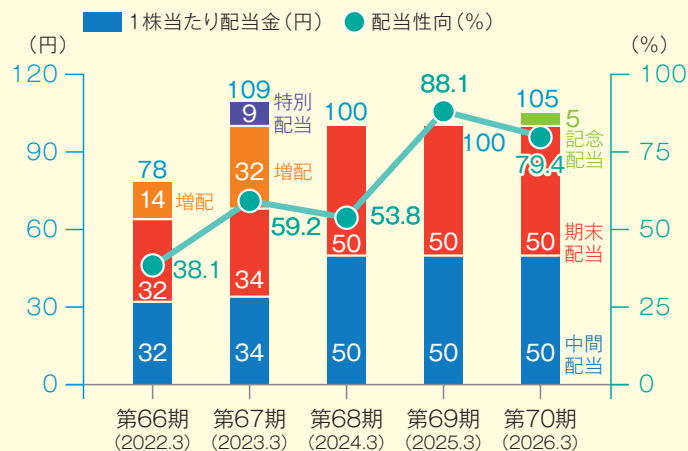
株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益配分と会社の体質強化のための内部留保との調和を図りながら、配当につきましては配当性向重視の方向を維持してまいります。

また、当社の配当方針は株主の皆様様に長期的に当社の株式を保有していただくため、当社の事業展開や財務状況のほか会計基準の変更等特殊要因による業績変動等を総合的に勘案し、1株当たり100円の安定的な配当を70周年まで行うこととしておりましたが、引き続き当方針を75周年まで継続的に取り行う予定であります。

なお、当期の1株当たりの配当金につきましては、中間配当50円に期末配当50円及び記念配当5円を加え年間配当は105円といたしました。

1株当たり配当金と配当性向



● 会社の概況 (2026年6月25日現在)

社 名 蔵王産業株式会社
本 社 東京都江東区毛利一丁目19番5号
 TEL 03-5600-0311

資 本 金 20億7,776万円

役 員 代表取締役社長 沓澤孝則
 常 務 取 締 役 竹村 洋
 常 務 取 締 役 御幡純平
 取 締 役 村上正俊
 取 締 役 会田 南
 取 締 役 大山邦子
 常 勤 監 査 役 大沼源吉
 監 査 役 川添利賢
 監 査 役 宮崎雅俊

営業品目 動力清掃機、カーペット清掃機、泥層・氷層除去機、
 真空掃除機、自動床洗浄機、カーペット洗浄機、
 カーペット濯ぎ洗い機、高圧洗浄機、スチーム洗浄
 機、振動式洗浄機、部品及びメンテナンスサービス、
 清掃・洗浄機用消耗品及びアクセサリー、その他

営 業 所 札幌営業所 仙台営業所 宇都宮営業所
 水戸営業所 船橋営業所 川越営業所
 東京営業所 横浜営業所 新潟営業所
 静岡営業所 金沢営業所 名古屋営業所
 京都営業所 大阪営業所 神戸営業所
 岡山営業所 広島営業所 高松営業所
 福岡営業所 鹿児島営業所 商事営業本部
 盛岡出張所 物流センター及び試験研究室

● 株式の状況 (2026年3月31日現在)

発行可能株式総数 22,000,000株
 発行済株式総数 5,438,072株 (自己株式827,928株を除く)
 自己株式数 827,928株

● 株主の状況

総株主数 46,585名

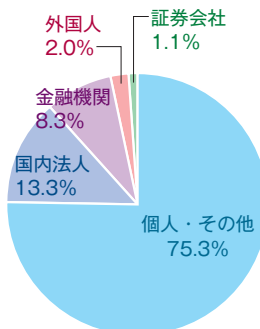
● 大株主の株式所有状況

(単位：株)		
	持株数	持株比率
株式会社三井住友銀行	246,700	4.54%
株式会社千葉銀行	230,000	4.23%
学校法人麻生塾	230,000	4.23%
東京美装興業株式会社	158,400	2.91%
土方孝悦	154,900	2.85%
蔵王産業従業員持株会	129,580	2.38%
株式会社ユシロ	120,000	2.21%
照井雅夫	89,820	1.65%
オリックス自動車株式会社	60,000	1.10%
スーパー工業株式会社	50,000	0.92%
合 計	1,469,400	27.02%

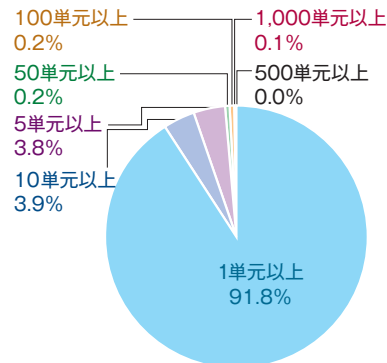
※持株比率は自己株式(827,928株)を控除して計算しております。

● 株式分布状況

所有者別株式数構成比



所有株数別株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL：0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

● 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。



蔵王産業株式会社

〒135-0001 東京都江東区毛利1-19-5 TEL:03-5600-0311 FAX:03-5600-0516